

キャンパス間をつなぐ遠隔授業

学術認証フェデレーションのサービスを活用した遠隔講義

日本大学

学術認証フェデレーションが提供する TV 会議システムサービスを 10 学部 13 キャンパスで実施する遠隔授業に活用している。今後は電子ジャーナルサービスの利用にも着手するなど、学認を活用した情報システムの拡充を予定している。

課題

13 あるキャンパス間を TV 会議システムで接続し、双方向の遠隔授業を実施している。しかし、このシステムは利用上の制約も多く、TV 会議や打ち合わせなど、遠隔授業以外での利用は難しいのが実情であった。他にも回線品質や画質の改善要望も出していたこともあり、日大 WAN の QoS 対応を含め、TV 会議システムの更新を検討していた。

解決策

遠隔授業が始まったのは平成 10 年度。当時は 3 学部 4 キャンパスを衛星回線と ISDN テレビ電話で接続していた。その後、10 学部 13 キャンパスと接続先が増え、平成 21 年度には回線も衛星から完全 IP 化へと進展した。授業内容は前後期とも 1 講座ずつ開講され、前期 12 回、後期 13 回の授業を行っている。

導入のきっかけは平成 22 年の春、学術認証フェデレーション(学認)が主催するセミナーへの参加にあった。そこで学認が電子ジャーナルサービスだけでなく、TV 会議システムをサービスとして無償提供していることを知り、遠隔授業での利用が可能かどうか検討した。その結果、学認が提供する MCU「FaMCUs」は、本学で使っていた MCU と比べて使い勝手が良いことが分かった。さらにハイビジョンにも対応しており、回線速度や画質の向上ができるなど、更新による効果が期待でき、学認への参加を決定することになった。

学認の TV 会議システムを使った遠隔授業は平成 22 年 9 月から開始された。日大 WAN が QoS に対応したこともあり、高画質の遠隔授業を安定的に利用できるようになった。このシステムを利用するには Shibboleth に対応した認証システムが必要だったが、電子ジャーナルサービスを利用する

のと違い、必要最低限のアカウントによるミニマム規模で始めることができた。

結果

学認が提供する FaMCUs は、従来の MCU と比べて使い勝手の良さが特長である。パソコンを使つての利用にも対応しており、教員の創意工夫を活かした遠隔授業の実現や、他にも通常の会議や学生との個人面談など、学生・教職員のコミュニケーションツールとしての活用にも期待が高まる。

また、現在図書館が契約している電子ジャーナルサービスへのアクセスは学内からに限定されているため、自宅からの利用が事実上できない。そのため、学外からの利用が可能な学認が提供する電子ジャーナルサービスの導入が決定した。

現在、SSO のメリットを発展させた認証基盤にするため、GoogleApps を用いた既存メール・アプリシステム「NU-Apps(G)」と学認のどちらかを一度認証すれば GoogleSAML と Shibboleth の認証基盤にとらわれずにどちらへも往来できるシングルサインオンシステム「NU-SSO」を構築中である。

今後は学術無線 LAN ローミング基盤「eduroam」など、学認が提供する他のサービスの導入も検討していく予定である。

(日本大学総合学術情報センター 堀 潤一郎・相川 成周)

